

指導者の心得について

『クリーン・ザ・ゲーム』『リスペクト・フォー・ザ・ゲーム』

1. 指導者も「友情・ほほえみ・フェアプレイ」

- ①試合開始前には、相手コーチや審判員、テーブルオフィシャルと握手等で交流を図る。
- ②選手への挨拶指導の徹底。
 - (1) 登録時のテーブルオフィシャルへの挨拶。
 - (2) 試合開始前の審判員への挨拶。(ゲームキャプテン)
 - (3) 試合開始、終了時の相手チームへの挨拶。(コート上の選手、ベンチの選手)
 - (4) 試合終了後の相手チーム指導者への挨拶。(チーム代表選手)
- ③時間を守る。
 - (1) 選手登録は速やかに行う。(2) タイムアウトの指示は時間内に済ませる。
 - (3) 試合後のベンチの片付け。
- ④試合中の所作
 - (1) ベンチ内で立ち上がって指示できるのは、コーチ証を発行されたスタンディングコーチのみ。
 - (2) タイムアウトは余裕をもって請求する(直前の請求には応じられない場合もある)。
 - (3) 選手や審判員に対する言葉かけに十分気をつける。

2. ハラスメント行為の撲滅(練習中から徹底すること)

- ①選手や審判員、テーブルオフィシャルやマンツーマンコミッショナーに対する暴力、暴言。
- ②ベンチを蹴る、物を投げつける等の暴力行為。
- ③判定や処置に対する質問は、コーチのみが穏やかな態度で行うことができる。感情を露わにした不満の言葉やジェスチャーはテクニカルファウルの対象となる。(別紙①)
- ④選手との身体接触(特に男性指導者と女子選手、女性指導者と男子選手)は避ける。

ゲーム中のコーチによるプレーヤーへの暴言、暴力的行為に対する対応方針(ガイドライン)

JBAでは、インテグリティの精神(誠実さ、真摯さ、高潔さ)に則り、「クリーンバスケット、クリーン・ザ・ゲーム」を推進していきたいと考えています。これは、ゲームに関わるプレーヤー、コーチ、レフェリー全ての協力でゲームの価値を高めようとする取り組みであり、ゲームを尊重する精神「リスペクト・フォー・ザ・ゲーム」にそったものでもあります。

バスケットボールのゲームは、ゲームに関わる関係者のみならず、観客の存在も欠かすことができません。プレーヤー、コーチ、レフェリー、観客も含めてゲームの価値を高める努力をすることが必要です。そして、そのためにはコーチの振る舞い(行動や行為)も非常に重要になってきます。コーチの振る舞いは、ゲームに関わる関係者(プレーヤー、レフェリー)に直接影響があるだけでなく、ゲームを観ている観客の方々にとっても大きな影響を与えます。そこで、コーチの振る舞いについてある一定の基準を設けてテクニカルファウルの対象とし、ゲームの価値を下げない取り組みを推進することとしました。

【テクニカルファウルの対象となる振る舞い(行動・行為)】

1. コーチのプレーヤーに対する暴言
 - (1) 人格、人権、存在を否定する言葉(具体例) 最低、クズ、きもい、邪魔、出ていけ、帰れ、死ぬ、てめえ、この野郎、貴様
 - (2) 自尊心を傷つける、能力を否定する言葉(具体例) 役立たず、下手くそ、アホ、バカ
 - (3) 身体的特徴をけなす言葉(具体例) チビ、デブ
 - (4) 恐怖感を与える言葉(具体例) 殴るぞ、しばくぞ、ぶっとばすぞ、帰りたいの?、試合出たくないの?
2. コーチの暴力的(攻撃的・虐待的含む)振る舞い(行動・行為)
 - (1) 殴る・蹴るなどを連想させる行為
 - (2) プレーヤーと近接(顔の目の前、腕一本分より近い距離)して高圧的威圧的に指導する行為
 - (3) 「おい!」「こら!」と大声でプレーヤーを高圧的威嚇的に指導する行為
 - (4) 継続的、かつ、度を越えた大声でプレーヤーを指導する行為、いわゆる怒鳴りつける行為
 - (5) 物に当たる、投げる、床を蹴るなどの行為
3. 第三者が不快と感じる振る舞い(行動・行為)
 - (1) 不潔な服装、裸足やスリッパでの指導